

【別紙様式2】

向上心を持ち、進んで運動に取り組む子どもの育成 ～ 達成感を味わえる取組を中心にして ～

霧島市立陵南小学校

| | | | |
|-------|----------------------|------|-----|
| 全校児童数 | 308名 (男子161名 女子147名) | | |
| 全クラス数 | 14学級 | 教職員数 | 24名 |

取組時の課題と目的

1 取組時の課題

- ・ 進んで屋外運動（遊び）をする子どもが少ない。（運動が習慣化されていない。）
- ・ 筋持久力と投力が、県平均を大きく下回っている。
- ・ 持久走を苦手としている子どもが多い。（忍耐力の不足、目的意識の不明確さ等）
- ・ 一輪車（用具に乗る運動）を苦手としている子どもが多い。（興味や意欲の不足、向上心や忍耐力の不足等）
- ・ 低学年では、暑さや寒さ、恐怖心を理由に「体育が楽しくない」と感じている子どもが多い。
- ・ 上学年では、友達と比較されることが嫌で「体育が楽しくない」と感じている子どもが多い。
- ・ 子どものたくましさ（忍耐力）を望んでいる保護者が圧倒的に多い反面、自家用車による送迎が多い。

2 取組の目的

- ① 自己の課題を持ち、その克服に向けて一生懸命努力する子どもを育成する。
- ② 仲間と協力し、共に高め合う子どもを育成する。
- ③ 健康で豊かな生活を送るための、基礎的な技能や知識を身に付けた子どもを育成する。

取組の内容

1 授業実践（教科体育）を中心とした取組

(1) おに遊びの開発・工夫・実践

本校では、おに遊びを「主運動につなげるために、子どもたちが楽しんでできる補助運動」と捉え、体育の授業で、継続的に実践してきている。実施内容については、既存のおに遊びをアレンジするなどして、担任が開発・工夫している。現在、おに遊びを位置付けた年間指導計画を作成中である。

(2) 学習カードの活用

子どもたちに授業計画や本時の目標を明確に意識させたり、自己の成長を振り返ったりする手段として、学習カードを継続的に活用してきている。第1回研究授業で提案された形式をベースにししながら、学習内容に応じて担任がアレンジを加えながら活用している。

2 授業以外の取組

(1) 自主的な体力づくり（カードの工夫と環境整備）

昨年度までを振り返ると、運動会や持久走大会に

向けて校庭を走ったり、なわとび発表会に向けてなわとび運動に励んだりする子どもの姿は見られた。しかし、それらの活動は一過性のものに過ぎず、目標としていた行事が終わると、子どもたちは、めっきり校庭へと出て行かなくなっていた。そこで、この状況を打破し、子どもたちが自ら進んで継続的に体力づくりに励むような手立てとして、「たくましい陵南っ子カード」を作成し、それに伴い、体力づくりのための看板も設置した。また、子どもたちが自分なりの目標を設定できるように体力ナビの活用も図っている。さらに、これまでの懸案事項だったカード類の蓄積について改善するために、全児童にトレーニングファイルを持たせ、体育関係のカードをすべて綴らせるようにしている。

(2) 家庭への働きかけ（日曜参観での新企画・実践）

今年度の新たな取組として、6月の日曜参観日に全校児童および保護者で、「親子ふれあい活動」を行った。体育部が運営の中心となり、全身を使つてのウェーブづくりや誕生月に分かれてのボール・フープ受け渡しなど、楽しみながら体を動かせるような内容であった。

取組の成果

- ① 体育の授業において、楽しみながら導入できるようになり、主運動に意欲的に取り組む姿が多く見られるようになってきた。
- ② 学習カードの活用により、子どもたちが授業に臨む際の意識が変化してきた。また、教師が子どもたちの気持ちや考えを把握する上でも、役に立った。
- ③ 子どもたちが、自分なりの目標に向かって、意欲的に体力づくりに励む姿が見られるようになった。行事に向けた一過性の体力づくりという課題も克服できてきた。

今後の課題

- ① おに遊びを位置付けた年間指導計画の確立と、運動量の確保や学び合いの充実などを図り、さらに子どもたちが達成感を味わえるような授業づくりを行う。
- ② 子どもたちの自主的な体力づくりが、さらに継続できるような手立て及び体力の変容をみとるためのデータ化を図る必要がある。
- ③ 幼稚園・中学校への情報提供及び連携を図る。
- ④ 家庭や地域への呼びかけや協力的体制の充実を図る。